

大井町立大井小学校

研究テーマ：子ども自らが問いをもち、学び合い、深め合う授業をめざして

1 実践の目的

目的は二つ。一つは学校教育目標の実現。もう一つは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善である。前者については、『自分づくりに励む子ども』『未来づくりにかかわろうとする子ども』の育成という学校教育目標の具現化を目指して、「納得解が得られる授業づくり」と「向社会的行動につながる授業づくり」に取り組む。後者については、算数と道徳を中心に学校全体で授業づくりの視点を共有し、授業改善に努めていく。

2 実践の内容

(1) 研究の重点

① 子どもの「問い」の具現化

「問い」をもつ子どもとは、どのような姿を捉えるのか。その部分を、算数と道徳の各教科で追究した。また、「問い」を生むためのしかけや発問の工夫等を追究していくこととした。

② 「学び合い」に向けた教師の関わり

相手を意識した「聞き方」や「話し方」等、充実した学び合いにするための教師の効果的な言葉かけについて追究することと、子ども自らが動き出す能動的な学び合いにするための方法について追究していくこととした。

③ 「深め合う」授業像の共有

各教科の特質に応じた見方・考え方に着目し、「深め合う」授業像について共有、実践、検証していくこととした。

(2) 全体授業研究

研究授業では、教師がどう教えたかではなく、子どもがどう学んだかに焦点を置き、その言動やそれに紐づけられた思いや願いを読み取るようにした。協議会では、Google Jam board（年度途中からオクリンクプラスに変更）を活用して、「問い」「学び合い」「深め合い」の3本柱について、具体的な子どもの姿とそこから見えた手立ての成果や課題を議論した。

算数では東京家政大学教授 石田淳一先生、道徳では昭和女子大学現代教育研究所研究員 高木くみ子先生を講師として招聘し、ご指導いただいた。算数では、「学び合い」を深めるための指導や数学的な見方・考え方について、道徳では、「問い」のある授業展開や価値に迫るための具体的な手立てについて学ぶことができた。

(3) 研究推進だよりの発行

研究授業を通して見えた成果と課題や、授業改善に向けた指導のポイントなどを発信するようにした。年間を通して継続的に発信することで、学校全体で同じ方向を向いて研究できるように努めた。

3 実践の成果と課題

(1) 本校で育成を目指す子ども像の共有

本校では、子どもの「問い」と「学び合い」の両者を軸にして「深め合う」授業をめざし、「深め合う姿」を次のように捉えることとした。

[算 数]

- | | |
|---|----------------------------------|
| ① 友達と自分の考えを比較しながら学習することを通して、考えが深まったり、変容したりする姿 | ② 子どもが目標達成のために互いに補完しながら協働的に学び合う姿 |
|---|----------------------------------|

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| ③ 「なぜ」「わからない」を追究する姿 | ④ 経験や既習と結び付けながら根拠を明確にし、説明する姿 |
|---------------------|------------------------------|

[道 徳]

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ① 自分ごととして捉え、道徳的価値に迫る問いをもち、納得解を獲得しようとする姿 | ② 友達の見解を聞いた時に、「なるほど」「でもさ…」など思わず反応する姿 |
|---|--------------------------------------|

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| ③ 友達の見解を尊重し、認め合いながら、物事を多面的・多角的に考える姿 | ④ 様々な意見に触れ、自らの考えを広めたり深めたりする姿 |
|-------------------------------------|------------------------------|

(2) 本校全体で取り組む手立ての共有
研究テーマに迫るための手立てを職員全体で検討し、実践した。それらの手立てを次のとおり示す。

	[算 数]	[道 徳]
「問」	問いの共有	アンケートの活用
	不親切である親切	心の可視化
	実生活からの授業展開	
「学び合う」	目的に応じた学習形態	本音を引き出す言葉
	ペア（グループ）トークの活用	

(3) 大井町学びづくりアンケートから

6月と12月に実施した結果から子どもの変容について次のとおり示す。※一部抜粋

[算 数]

「算数の授業で、どのような時間が楽しいと感じますか。」

上段：6月
下段：12月



6月(上段)の分析結果から項目A、B、Dを充実させることが深い学びにつながると仮定し、次の3点を重点項目として取り組んできた。

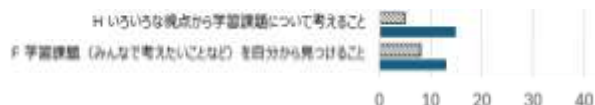
- ① 学び合うことで解決できた達成感
- ② 算数的思考力が高まったという充実感
- ③ 自己が変容したことの自覚（メタ認知）

各項目、同等もしくは若干の数値の向上が見られたことは成果だと考える。

[道 徳]

「道徳の授業で大切だと思うことは」

上段：6月
下段：12月



大井小学校として重点とした項目、F、Hについて肯定的回答が増加した。役割演技や複数の角度からの発問を活かした授業展開の成果だと考えられる。

4 今後の展開

今年度の研究のスローガンを、「Next」とし、2022年からの校内研究で共有してきたことを活用する段階と位置づけスタートした。問いを意識した授業づくりや、子ども同士の発言をつなげる教師の声かけ、ICT機器の活用、研究授業後に発行する推進だよりでの情報の共有などは成果として挙げられる一方で、学びの深まりを評価する方法やタイミングについては課題として挙げられた。今後も、主体的に楽しく学ぶ子どもの姿を目指し、学校研究の推進を図っていきたい。